

## 地域リハビリ支援報告書

支援対象者) ○○ ○○ 様

居宅介護支援事業者) ○○居宅介護支援事業所 (○○ ○○様)

支援日時) 令和○年○月○日 ○時○分から○時○分

支援目的) 自宅の転倒リスクの評価と必要な支援の検討

支援者) 地域リハビリ推進室・デイサービスセンターつながる 木原  
○○居宅介護支援事業所 ○○様

### 支援内容)

日常生活活動の評価と必要な支援の検討

- ①居場所) ・日中は玄関横にある居間の半座椅子に座り、テレビなど見て過ごされている。  
・半座椅子からは、ちゃぶ台に手を付きながら立ち上がる。



- ②トイレ・洗面台) 居間←→トイレ / 2階寝室←→トイレ  
・台所を通り、家の奥にあるトイレまで、壁や柱などにつかまり移動する。  
・トイレは手すりが設置されており、立ち座りに不便はない。

各部屋出入口、小さな段差あるが、そこでの転倒はない



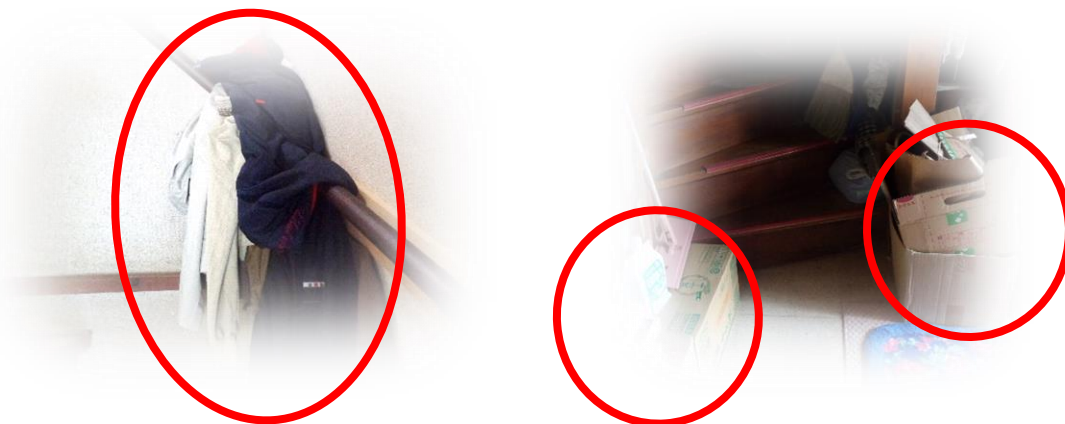
- ③階段) 居間←→寝室  
・階段はカーブを描く曲線で、片方に手すりが設置されており、手すりと壁を使い昇降。  
・2階の寝室では布団に寝ている、隣の奥様のベッドにつかまり立ち座りしている。



課題)

- ①寝室が2階であり、夜に1階のトイレへ2度ほど階段を昇降する必要があり、転倒リスクが高い。
- ・ポータブルトイレやリハビリパンツを用いる意思はない。
  - ・夜電気をつけて昇降するので、階段は見えている。

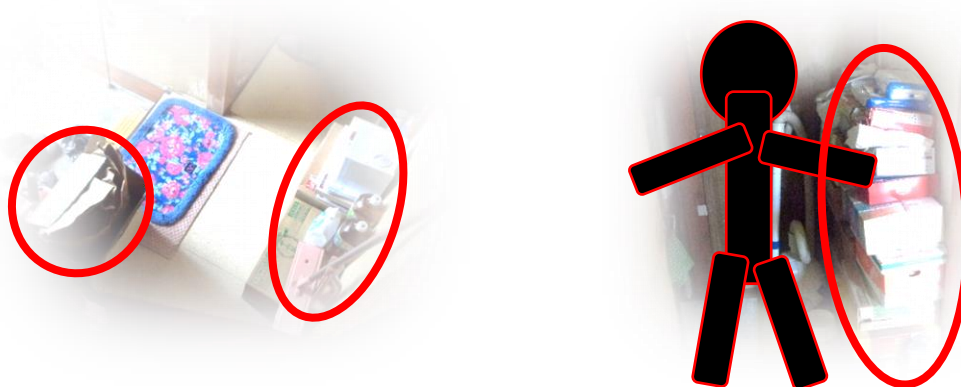
提案)・階段の途中にある洋服を片付け、手すりが見えるようにする。  
・階段下に荷物があると、避けて降りようとしバランスを崩す可能性あり、片付け推奨。



※夜のトイレが間に合わないことが出てくる可能性はあり、夜だけリハビリパンツ使用も推奨。

- ②廊下などの移動は、壁や柱などにつかまり移動されているが、荷物によりつかまれない箇所は転倒リスクが高い。

提案) 荷物があることで、壁や柱につかまれない場所では、荷物の片付け推奨。



- ③1年前までは、テレビの合間に1時間ごとに外を歩いていた。現在、右腰や右脚の痛みがあり(原因は不明)、外を歩く気力がなくなった。階段昇降やスリッパ歩き(スリッパが落ちないようにつま先を無意識に上げる)である程度筋力は維持されている。体力は低下している。歩行器を用い、外歩きする提案は気が進まない。

提案) デイ利用時で、落ち着いた天候時に屋外歩行のリハビリを試みる。



特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき  
地域リハビリ推進室 室長  
デイサービスセンターつながる センター長  
木原秀樹(理学療法士)